



愛知の宝 有松・鳴海絞り

今回の展示は夏のお祭りによく着られる浴衣から連想し、愛知の伝統工芸品である**有松・鳴海絞り**にスポットを当てました。この機会に有松・鳴海絞りの良さを感じていただき、愛知のことをもっと知っていただけたら幸いです。

有松とはどんなまち

有松は、池鯉鮒（現・知立）宿と鳴海宿の間に開かれた東海道に沿うまち。



「Aichi Now フォトギャラリー」より

有松の該当地域は、古い町並みが残る「有松」と、戦国時代に桶狭間の戦いが起こった地である「桶狭間」で、現在は名古屋市緑区の一部となっている。

重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、有松・桶狭間周辺は古風な建物が多い。

<参照>

『愛知県の歴史散歩(上) (新全国歴史散歩シリーズ; 23)』愛知県高等学校郷土史研究会編。山川出版社, 1992.3 (291/213/1)

有松・鳴海絞りは どのようにしてできたのか

阿久比の荘園から移住してきた竹田庄九郎らによって作られた。
きっかけは尾張名古屋での築城計画で出稼ぎに行ったことである。そこで出会った豊後国
(大分県)の人たちが身に着けていたものが、有松・鳴海絞りの原点ともなる絞り染めであった。

庄九郎たちは有松に戻ると、藍染めの仕方を紺屋に教わった。また、
木綿布や藍を取り寄せ、見よう見まねで布を糸でくくり、染め始めた。
そして、染め物を使った小商いを始める。絞りにも工夫を凝らし、
鍛染(しころぞめ)として売り出した。

のちに尾張藩主・徳川光友が将軍・綱吉にこの絞り染めを贈った
ところ、たいへん喜ばれたようである。

『尾張寛文記』に「元禄9年頃は絞りを行う家は2、3軒であったが、
49年後再び通ると村中が紺屋になっていた」との記述が見られる。
そこから40~50年後、『東海道名所図会』に有松の名産品として
登場。その後、『尾張名所図会』にも登場した。

<参照> 『有松しばり』竹田耕三著. グラフィック社, 2008. 1 (753/361)

『有松の庄九郎』中川なをみ著. 新日本出版社, 2012. 11 (J91/237)



『東海道五十三次 鳴海』葛飾北斎

有松・鳴海絞りの技法

有松では、豊後から伝わった絞りの技法を「豊後絞り」、別名「三浦絞り」と呼んだ。この技法を様々に変化させたものに「平三浦」「やたら三浦」「石垣三浦」などがある。この技法は、下絵なしに、職人の熟練した指先だけで括られる。

下絵をつけるものは、図案を型紙に彫り、洗うと消える青花液で生地の下絵を刷る。その下絵にそって綿糸で括り、染色、糸抜きをする。

有松・鳴海絞りは、基本は職人一人が一つの技法を駆使して絞りをを行う。職人たちが連綿と受け継いできた技法は70とも100を超えとも言われる。

<参照>

『有松しぼり』竹田耕三著. グラフィック社, 2008.1

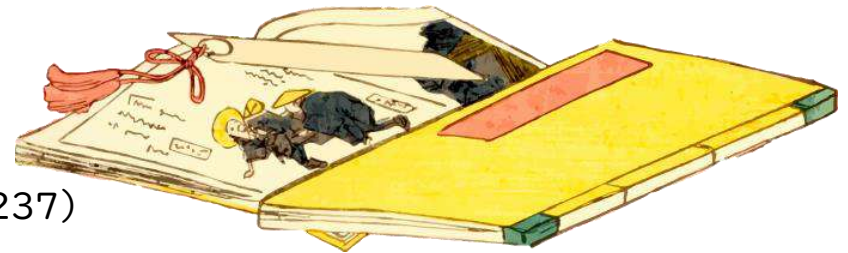
『日本の伝統染織事典』中江克己著. 東京堂出版, 2013.1



『東海道五十三對 鳴海』香蝶楼豊国

<参考文献>

- 『有松しぼり』竹田耕三著. グラフィック社, 2008.1 (753/361)
- 『庶民の染織』岡村吉右衛門著. 衣生活研究会, 1976.11 (753/72)
- 『暮らしが育てた色 (ものと人間の文化史 ; 65-2 . 藍 ; 2)』竹内淳子著. 法政大学出版局, 1999.10 (383/630/65-2)
- 『絞り染 : 古代から続く優美な染め (日本の染織 ; 12)』泰流社, [1976] (753/79/12)
- 『日本の絞り技法, 技法編~資料編』安藤宏子著. 日本放送出版協会, 1992.6 (753/224/1~2)
- 『染織の黒衣たち』菊池昌治著. 法政大学出版局, 2008.6 (753/346)
- 『藍染め (NHK美の壺)』NHK「美の壺」制作班編. 日本放送出版協会, 2007.10 (753/350)
- 『日本の伝統的織りもの、染めもの』三宅和歌子著. 日東書院本社, 2013.2 (753/387)
- 『日本の伝統染織事典』中江克己著. 東京堂出版, 2013.1 (753/389)
- 『世界の絞り染め大全 : その技法とルーツをひもとく』安藤宏子著. 誠文堂新光社, 2016.7 (753/407)
- 『新修名古屋市史(3)』新修名古屋市史編集委員会編集. 名古屋市, 1999.3 (215/131/3-1,2)
- 『愛知県の歴史散歩(上) (新全国歴史散歩シリーズ ; 23)』愛知県高等学校郷土史研究会編. 山川出版社, 1992.3 (291/213/1)
- 『東海道(2) (江戸時代図誌 ; 15)』児玉幸多編. 筑摩書房, 1977.1 (210/226/16)
- 『東海道五十三次 (浮世絵体系 ; 14)』広重画 ; 吉田漱担当.
集英社, 1975.6 (721/64/14)
- 『風景画 (北斎美術館 ; 2)』集英社, 1990.5 (721/108/2)
- 『有松の庄九郎』中川なをみ著. 新日本出版社, 2012.11 (J91/237)



タイトル		著者名
出版社	出版年	請求記号
解題		
有松・鳴海絞（日本の手わざ；3）		竹田嘉兵衛解説
源流社	2006.3	750/86
有松・鳴海絞の誕生とその変遷についてはもちろん、豊富な技法を大量のカラー写真で丁寧に解説。絞りの技術だけでなく、型彫や絵刷、藍染の作業の様子なども紹介。		
日本の絞り技法，技法編，資料編， 実物見本裂		安藤宏子著
日本放送出版協会	1992.6	753/224/1~3
絞り染め作家・安藤宏子氏による各地の絞りの技術調査、製品の収集、各産地の技術者と本人によるサンプル製作の集大成。今回は貴重な見本裂を入れ替えながら展示します。		

タイトル		著者名
出版社	出版年	請求記号
解題		
有松の庄九郎		中川なをみ作；こしだミカ絵
日本出版社	2012.11	J91/237
江戸時代、有松に移り住んだ人々は開墾を進めるが、作物がまるで育たなかった。食べるために名古屋城築城に参加した庄九郎たちは、そこで豊後の染め物に出会う。有松の村と有松絞の始まりの物語。2013年読書感想文コンクール課題図書の1冊。		
有松しぼり 有松しぼり(二刷)		岡田精三編集・解説 有松しぼり編集委員会編集
有松絞技術保存振興会	1972.10 1979.2	587/106,753/47 753/198
有松絞りにまつわる貴重な古文書や文献を集めて記録した、詳細な沿革史。内容もさることながら、装丁に用いられている有松絞りが美しい。		